

V11a **miniTAO 1m 望遠鏡用近赤外線カメラ ANIR のステータス**

本原 顕太郎、小西 真広、舘内 謙、大澤 亮、加藤 夏子、高橋 英則、越田 進太郎、田辺 俊彦、松永 典之、峰崎 岳夫、諸隈 智貴、浅野 健太郎、内山 瑞穂、上塚 貴史、酒向 重行、中村友彦、宮田 隆志、青木 勉、川良 公明、河野 孝太郎、征矢野 隆夫、樽沢 賢一、田中 培生、土居 守、吉井 讓 (東京大学)、半田 利弘 (鹿児島大学)

東京大学天文学教育研究センターは現在、南米チリ・アタカマのチャナントール山山頂 (標高 5640m) に口径 1m の赤外線望遠鏡を設置・運用している。ANIR (Atacama Near InfraRed camera) はこの望遠鏡の近赤外線撮像カメラで、 $1\text{--}2.5\mu\text{m}$  で 5 分角の視野をもつ。また、ダイクロイックミラーを望遠鏡焦点手前に入れることにより可視赤外同時撮像も可能である。2009 年のファーストライト以降これまでに 4 回の観測ランを行い、合計 50 夜の観測を行ってきた。本発表ではその観測から得られた ANIR およびサイトの性能と、現状を報告する。

チャナントール山頂はその乾燥した気候と高い標高のお陰で、非常に低い水蒸気量 ( $\text{PWV}_{25\%}=0.5\text{mm}$ ) が実現される。実際の観測でも、地上からの観測が困難だといわれてきた水素  $\text{Pa}\alpha$   $1.8751\mu\text{m}$  輝線の狭帯域撮像が安定して実行できることが示された。天候も良好で、観測を行うことができた時間は総観測時間の 90%を超えている。また、ANIR で実測された可視/近赤外波長域のシーイングは中央値で 0.8 秒角を切る非常に良好な値であった。これらの結果は、この場所が赤外線観測に非常に適していることを示している。